

には、リンクがあります。 は、WAMNETの事業者情報にリンクします。

事業所名	グループホーム 福寿万記の里
日付	平成17年3月31日
	特定非営利活動法人
評価機関名	高齢者と痴呆の人のケアを大切にす会 LIFE SUPPORT推進グループ
評価調査員	在宅介護経験8年
評価調査員	在宅介護経験16年
評価調査員	老人保健施設介護実務及び介護支援専門員
評価調査員	在宅介護経験8年 経験8年
評価調査員	在宅介護経験11年
評価調査員	在宅介護経験10年
自主評価結果を見る	
評価項目の内容を見る	
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	

外部評価の結果

講評
全体を通して(特に良いと思われる点など)
医療や福祉法人の専門職ではなく、食品関係事業をしていた社長が、自分の家の家族の介護経験から、「普通の人の暮らしの目線で、認知症高齢者の生活を大切にあげたい」という思いで、営利を目的とせず、社会貢献事業として、グループホームを設立した。
3階建て各階が独立したユニットになっており、それぞれに管理者が独自の運営をしていて、ユニット毎に特徴があるようだ。管理者・職員と利用者の組み合わせで、特色をつくり出している。
共通して言える良い点の1つが、1階にある小ホールのカルチャールームである。この広い空間は利用者同志の交流、子供やボランティアの慰問公演やカラオケあるいは利用者や地域の人達のカルチャー作品の展覧会等に活用される。この空間がますます頻繁に使用されることが期待される。
「食べる事は大切だ」が生活のモットー。各ユニットは別々の献立であるが、代表者が調理の専門家であるだけに、日頃は美味しい漬物等が振舞われているが、何か行事をすると、代表者が腕を振るってくれ、ご馳走が味わえる。
開設から日も浅く、体制が完全なものとは言えない状況にあり、色々な対応に苦慮しているところであるが、全職員は「もっと良くなる」とケアの質の向上に熱意があり意欲を燃やしている。
特に改善の余地があると思われる点 次のような提案をした
認知症の人の気持ちや心を察知したり見出すことの術を職員一人ひとりが身につけるよう、機会ある毎に研修と実践を重ねて欲しい。
利用者の情報をどのように日常のケアに生かしていくか、利用者の日常の生活から何のデータを汲み取るか、それをどうケアに利用していくか等トータルなケアシステムの構築をして、職員間で共有すべき情報システムを確立して貰いたい。
家事や作業、レクリエーションなど利用者にしてできる活躍の場をつくり、出来る喜びをもっと持たせてあげて欲しい。
グループホームの“たより”の発行を検討し、家族や地域に交流することを考えて貰いたい。

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
	「一人ひとりの暮らしを尊重し、尊厳の確保と自立支援」を目指し家庭的な雰囲気と生活が出来るような場を提供しようとしている。社長の思いを理解し、方針を具体化して各々のユニットで日々のケアを展開している。これは、「利用者が日々の生活の中で自分のしたい事をさせてあげ、」「自分の持っている能力を引き出して、生活の中に生かしてあげる」ことである。そして利用者一人ひとりの気持を察し、希望を実現することにより満足感を持って貰えるような生活を目指している。それは利用者の笑顔と笑い声になって表れるであろう。		

生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
	3階建なので、1階の人と3階の人では外の眺望は随分違うだろうと思うが、各階住めば都となるのだろう。各階のユニットの他にカルチャー室があるので、ここで過す楽しみはプラスアルファである。カラオケや映画(認知症の人には?)が楽しめる。多くのボランティアの人達が音楽、ダンス、手品等で楽しませて欲しい。		
	各居室は 丁目 番地 様の表札で各人の部屋を表示している。1階が1丁目、2階、3階で2丁目3丁目となっているのでしょうか。これだけ部屋があると、何かマンションの住民のような感じです。		
	夫婦部屋が各階に1部屋ずつあり、夫妻で住む事が出来、これも楽しみである。		

ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人でできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
	何でもかんでも手伝うと言う過剰な気助けにならないよう気を付けながら、一人ひとりの能力を把握していつまでも自立して貰いたいと職員は取り組んでいる。		
	利用者が自分を磨いていこうとしている1つが、「カルチャーへの取り組み」があげられる。絵を描いたり、般若心経の写経をしたりして友達をつくり、楽しみを共有していくことは素晴らしい事である。個人で取り組んでいることをホーム全体として立派なカルチャールームを日常もっと生かしていけば、全体の輪が広がるだろうし、あるいは地域を巻き込んだカルチャー活動が出来るかも知れない		
	もう1つは「食べる楽しみ」だろう。社長の事業の基盤があり、今も食の大切さをこのホームの特色としているが、利用者と職員全体でこのグループホームで「食の文化」を創っていくことが来れば素晴らしいと思う。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
33	家族への日常の様子に関する情報提供		
34	地域との連携と交流促進		
35	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か。		
	社長以下全員で色々な情報を得て、体験と研修を繰り返しながら、このグループホームを育てていこうという気持ちで、認知症高齢者のケアのあり方を探っている段階である。		
	利用者本人の気持ちや希望、そして家族の要望にも耳を傾け、社長の意に添うよう職員全員が努力しようとしている。職員は思ったこと、気の付いた事など具体的なことを連絡ノートに記し、利用者への思いやり、利用者の気持ち、人と人とのつながり方などを職員同志で共有している。		
	これらは将来の発展のため大きな財産になるだろう。		
	ケアの質の向上の為、認知症の理解とケアのあり方、各チェック項目の記録とその応用方法、個人の能力を生かすための心身共のリハビリ、個人の持つカルチャーの価値付け、グループホーム全体としての文化の創設、家族と地域との連携のあり方など沢山の課題を抱えているだろう。このような沢山の事項の効率的なシステム開発と活用が、これからの新しいグループホームのサービスのあり方をつくり出していくのではないかと楽しみにしている。		